

令和4年3月

各 位

八戸市東京事務所長

八戸レポートの送付について

時下ますますご清祥のこととお喜び申し上げます。

「八戸レポート令和4年3月号」をお送りいたしますので、ご高覧くださいますようお願いいたします。

サッカーJ3参入4季目で、昨季13位だったヴァンラーレ八戸は、3月13日にテゲバジャーロ宮崎と敵地で今季開幕戦を迎えました。

また、ホーム開幕戦は3月27日で、藤枝MYFCと八戸市のプライフーズスタジアムで対戦します。

ヴァンラーレ八戸の今季のスローガンは「全緑2022 ONE WAY」。J2昇格へ向け巻き返しを誓うチームを「全緑」で応援しましょう。

◆ヴァンラーレ八戸の詳細はこちらをご覧ください（チームホームページ）

<https://vanraure.net/>

◎皆様へのお願い

職業、役職、住所などに変更がある場合は、八戸市東京事務所までお知らせくださいますようお願い申し上げます。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

電話 (03) 3261-8973 / FAX (03) 3239-6723

E-mail: tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

八戸 3月号 レポート

令和4年2月の八戸市内での出来事や八戸市に関連する情報をお届けします。

【行政】

記事	概要
(1)	第7次八戸市総合計画 策定委員会が市長に最終案提出
(2)	よりよいまちづくりには何が必要か 市民参加オンライン会議開催
(3)	日本生命保険青森支社、八戸市と協定 地域の安全確保へ連携
(4)	八戸市美術館 開館記念展終了 コロナ禍運営柔軟に
(5)	蕪島保存、活用へ ウミネコの生態や島の植生など 初の環境調査
(6)	八戸圏域地域連携ICカード「ハチカ」 サービス開始

【産業】

記事	概要
(7)	若者に人気のインフルエンサー生配信 日本酒とサバ缶PR
(8)	八戸酒類五戸工場 縁起酒 立春朝搾り発売
(9)	JR東日本 八戸駅に個室ブース設置
(10)	協働ロボットどう活用 八戸で見学説明会開催
(11)	青天の霹靂 米国ボストンで人気 ロコロボ（八戸）独自の輸出支援
(12)	日本航空企画 ライブ配信で八戸観光 八戸酒造や是川縄文館訪問
(13)	八戸港コンテナ取扱量 7年連続5万本突破

【地域】

記事	概要
(14)	省エネ政策ディベートコンテスト東北・高校の部 ウルスラ2連覇
(15)	チーノ（八戸）解体、再開発 マンション、複合ビル構想浮上
(16)	ドラマ「#居酒屋新幹線」第8話 八戸駅、八食センターなどで撮影
(17)	八戸青年会議所 まちづくりパネルディスカッション開催

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	八戸えんぶり全面中止 コロナ影響、2年連続
(19)	フラット八戸 初のeスポーツイベント開催
(20)	関川愛音さん（八戸市立湊中2年） スポーツライミング 全国で活躍

【行政】

記事	概要
(1)	<p>第7次八戸市総合計画 策定委員会が市長に最終案提出</p> <p>第7次八戸市総合計画（2022～2026年度）について審議を進めてきた策定委員会（委員長・長谷川明八戸工業大名誉教授）は2月1日、熊谷雄一市長に計画の最終案を提出した。総合計画は市政運営の指針となる市の最上位計画で、グリーン社会やデジタル化の進展といった環境変化への対応、持続可能な地域社会の実現などを重視した計画内容とし、地域が一体となって目指す将来都市像を定めた。まちづくりの方向性を示す六つの政策を柱に、それに基づき推進する55施策も盛り込んでいる。市は計画案を3月の市議会定例会に提案し、議決を経て正式決定する。</p>
(2)	<p>よりよいまちづくりには何が必要か 市民参加オンライン会議開催</p> <p>八戸市は2月12日、若者や女性のまちづくりへの参画を促進しようと、市庁をメイン会場に若者マチナカ会議をオンラインで開いた。高校生から40代までの市民ら計28人が参加し、各方面で活躍する同市のゲストスピーカー4人や熊谷雄一市長と議論を交えた。ゲストスピーカーは、八戸圏域の魅力を会員制交流サイト（SNS）で紹介する3人組ユニット「海猫ふれんず」の小田桐咲さん、平沼日菜子さん、イチカワファームの市川広也さん、食育料理家のなぎさなおこさん。ファシリテーターは、八戸学院大学長特別補佐の玉樹真一郎さんが務めた。参加者とゲストスピーカーからは、よりよいまちづくりには何が必要か方策を探ったり、自身が今後どのような活動をしていくか考えたりした。</p>
(3)	<p>日本生命保険青森支社、八戸市と協定 地域の安全確保へ連携</p> <p>地域の安全確保へ向けて八戸市と連携して見守り活動などに取り組む事業「地域の安心・安全見守り協定」の協力事業者として、日本生命保険青森支社は2月18日、市と協定を締結した。協力事業所の従業員らが日常の業務中に高齢者世帯の異変や、道路や公園の異常に気付いた場合、市に通報して適切な対応につなげる仕組み。これまでも具合が悪くなった高齢者を早期に発見し、救急搬送につなげた事例もある。同社の締結により協力事業者は40となった。</p>
(4)	<p>八戸市美術館 開館記念展終了 コロナ禍運営柔軟に</p> <p>八戸市美術館のリニューアルオープンを記念した特別展「ギフト、ギフト、」が2月20日、終了した。昨年11月の開館から同日までの来館者数は2万1464人（うち特別展観覧者1万3089人）。新型コロナウイルスの再拡大で青森県内の公共施設の多くが全面休館する中、独自の予約制により、県内の公立美術館で唯一、公開継続に踏み切った。3月末に始まるコレクション展からは、同じ展覧会を何度でも観覧できるフリーパス制度や駐車場利用割引を導入する予定で、来館者の声を吸い上げながら柔軟に今後の運営の在り方を見直していく方針。</p>
(5)	<p>蕪島保存、活用へ ウミネコの生態や島の植生など 初の環境調査</p> <p>ウミネコの繁殖地として国天然記念物に指定されている八戸市鮫町の蕪島について、市教委は新年度、文化財保護法に基づく保存活用計画の策定作業を本格化させる。4月から市として初めて蕪島の環境調査に着手し、ウミネコの生態や島の植生を探り、計画に反映させる考えだ。計画では、景観や生態系の維持へ向け、各種行為ごとに基準を設ける予定で、「蕪島とその周囲約109メートル」としている天然記念物の範囲に関しても見直す可能性もある。市教委は2024年度までの計画策定を目指しており、先人から受け継いだ貴重な財産を次世代に継承する。</p>

(6)	<p>八戸圏域地域連携ICカード「ハチカ」 サービス開始</p> <p>八戸市営バスと南部バスが導入を進めてきた地域連携ICカード「ハチカ」のサービスが2月26日、始まった。交通系ICカードの導入は青森県内で初めて。ハチカは、市交通部と南部バスを運行する岩手県北自動車（盛岡市）の事業で、公営、民営事業者がエリア全体で共同展開する全国初のケース。八戸圏域の路線バスの運賃支払いや定期券、交通ポイント付与といった地域独自のサービスに加え、Suica（スイカ）エリアで利用できる乗車券、電子マネーなどの機能が集約されている。スイカやスイカと相互利用が可能な交通系ICカードも八戸市営バスと南部バスで利用でき、圏域を訪れる観光客などの利便性も高まるほか、キャッシュレス決済で新型コロナウイルス禍の社会環境にも対応する。従来の利用者の利便性向上とともに、バス利用者の新たな掘り起こしが期待される。</p>
-----	---

【産業】

記事	概要
(7)	<p>若者に人気のインフルエンサー生配信 日本酒とサバ缶PR</p> <p>八戸酒造は、映像製作や広告出版などを手掛けるクリーク・アンド・リバー（東京）と共同で、インターネットで動画をライブ配信して商品を紹介、販売する「ライブコマースプロジェクト」を行った。若者に人気のインフルエンサー3人が、会員制交流サイト（SNS）のインスタグラムを活用し、八戸酒造の「陸奥八仙」と八戸市のマルヌシが製造する「八戸サバ缶バー」をPRした。若い世代に影響力を持つインフルエンサーに発信してもらい、日本酒に親しみが薄い世代などへ販路を拡大するとともに、八戸地域の魅力を伝えてもらうことで新型コロナウイルス終息後の観光客誘致につなげるのが狙い。</p>
(8)	<p>八戸酒類五戸工場 縁起酒 立春朝搾り発売</p> <p>八戸酒類は立春の2月4日、五戸町川原町の五戸工場で醸造した縁起酒「立春朝搾り」を発売した。日本名門酒会の呼び掛けで毎年実施しており、同社は15回目の参加。商品は青森県産酒造好適米「華吹雪」などを使用した「如空純米吟醸生原酒」で、昨年末から仕込み、2月3日夜に搾りを開始した。2月4日は、早朝から出荷作業が行われ、八戸市の霽神社の宮司からおはらいを受けた後、日本名門酒会に加盟する県内のスーパーや酒販店などに運ばれた。今年は約2300本が出荷され、720ml入りで、価格は1760円（税込み）。</p>
(9)	<p>JR東日本 八戸駅に個室ブース設置</p> <p>JR東日本は2月8日、八戸駅の新幹線改札外の自由通路に個室ブース型シェアオフィス「STATION BOOTH（ステーションブース）」を設置し、運用を始めた。同社がテレワークなど多様化する働き方を支援するために展開するシェアオフィス事業「STATION WORK（ステーションワーク）」の一環で、青森県内では、新青森、弘前に続き3カ所目となる。ブース内には電源やモニター、Wi-Fi、冷暖房などを備えており、ウェブサイトで会員登録をしてオンライン予約をするか、空いていれば予約なしでも利用できる。料金は15分275円（税込み）で、時間は午前7時～午後9時半。</p>
(10)	<p>協働ロボットどう活用 八戸で見学説明会開催</p> <p>青森県産業技術センター八戸工業研究所と八戸地域高度技術振興センターは2月9日、製造業の現場などで人と一緒に作業する「協働ロボット」の見学説明会を八戸工業研究所で開催した。ものづくりの現場では、少子高齢化による労働人口の減少に加え、ソーシャルディスタンスに配慮した生産ラインの構築が必要となり、労働力不足への対応が急務となっていることから、同研究所は本年度、協働ロボットや産業用ロボットなど計6機種と関連機種を初導入。説明会では、機械・電子部品の組み立てや、ねじ締め、梱包などで応用されるロボットの機能や実用事例が紹介され、参加者が生産性向上へ向けて活用の可能性を探った。</p>

(11)	<p>青天の霹靂 米国ボストンで人気 ロコラボ（八戸）独自の輸出支援</p> <p>青森県産ブランド米「青天の霹靂」が、米国ボストンで人気を集めている。輸出に関わったのは、八戸市の貿易会社「ロコラボ」。コロナ禍に端を発した世界的なコンテナ不足による物流逼迫で、現地の日系スーパー「エビスヤ」では日本産米の確保に苦慮していたが、ロコラボが独自のルートで輸出をサポートした。1袋25ドル（約2900円）は、国内よりは割高だが、現地では日本人だけでなく米国人も次々と購入したという。1月に空輸した2キロ入り60袋はわずか3日間で完売し、近く第2弾として210袋を出荷する予定。</p>
(12)	<p>日本航空企画 ライブ配信で八戸観光 八戸酒造や是川縄文館訪問</p> <p>日本航空青森支店は2月、オンライン上で観光地を巡る「JALオンライントリップ」を実施した。日航は新型コロナウイルス下でも自宅で気軽に旅を味わってもらおうと、2020年から同サービスを展開。現地からのライブ配信のほか、あらかじめ利用者に地域の特産品などを送り楽しんでもらう仕組みとなっている。今回参加した約70人は、ビデオ会議システム「Zoom（ズーム）」を使って、東京（羽田）から三沢空港行きフライトを仮想体験し、八戸市内に“到着”。八戸酒造や八戸市埋蔵文化財センター是川縄文館を巡り、八戸の食や文化を楽しんだ。</p>
(13)	<p>八戸港コンテナ取扱量 7年連続5万本突破</p> <p>青森県八戸港管理所は2月24日、2021年の八戸港のコンテナ貨物取扱量（速報値）を公表した。年間取扱量（20フィート換算、空コンテナを含む）は5万5129本となり、7年連続で5万本の大台を突破。コンテナヤードを使用した通常の取り扱いで見ると、過去4番目の多さだった。2021年実績の内訳は、輸出・移出が前年比3.2%増の2万7247本で、品目別で見ると紙・パルプ、鉄鋼、冷凍サバなどの水産品など多くの品目で前年を上回った。輸入・移入は7.9%増の2万7882本で、金属製品や非金属鉱物が増えた一方、冷凍イカなどの水産品などが減少した。実入りコンテナが回復した一方、新型コロナで世界的なコンテナ不足が続いており、同港でも空コンテナの取扱量が増加。空コンテナは2万318本と2020年に続いて高止まりの傾向を示した。</p>

【地域】

記事	概要
(14)	<p>省エネ政策ディベートコンテスト東北・高校の部 ウルスラ2連覇</p> <p>省エネルギーに関する新しい政策を提案し、議論する「省エネ政策提案型パブリックディベートコンテスト東北」（実行委員会、経済産業省東北経済産業局主催）高校の部で、八戸聖ウルスラ学院高が優勝し、2連覇を果たした。コンテストは1月9日にオンラインで開催され、予備審査を通過した東北6県8チームが、トーナメント方式で政策を発表。今回の議題は「積極的に環境負荷の低い製品やサービスを選択するため、消費者の行動変容を促す政策提案」だった。同校が提案した政策は「エラベル！クラベル！トラベルマイルージ！」。環境負荷の高い物質を排出しない商品に付くエコフレンドリーラベル（エラベル）や、環境保護に貢献するサービスを提供する企業の商品に付くクリーンラベル（クラベル）を購入すると、マイルージがたまり、このマイルージを利用してグリーンツーリズムに行くことなどを促す仕組みを提案した。</p>
(15)	<p>チーノ（八戸）解体、再開発 マンション、複合ビル構想浮上</p> <p>八戸市十三日町の商業ビル「チーノはちのへ」を、全国でマンション建設や市街地再開発事業などを手掛けるフージャースコーポレーション（東京）が取得して解体し、跡地一帯に分譲マンションなどを建設する構想が浮上している。同社は、再開発構想で15階建ての分譲マンション2棟を核に、ホテルと飲食物販機能を備えた複合ビル、立体駐車場を計画しており、現在、地権者と交渉を進めている。再開発面積は約7千平方メートルで概算事業費は約85億円。国や市の支援を受けることを前提とし、国の優良建築物等整備事業の活用を求めている。</p>

(16)	<p>ドラマ「#居酒屋新幹線」第8話 八戸駅、八食センターなどで撮影</p> <p>損保会社の内部監査室勤務の高宮進（眞島秀和）が、出張帰りの東北新幹線車中でご当地グルメを堪能する“テイクアウトグルメドラマ”「#居酒屋新幹線」が、昨年12月より毎日放送とTBS（関東地区のみ）で放送された。第8話（最終回）の八戸編では、八戸駅、蕪島周辺、八食センターなどでロケが行われ、八食センターでは新幹線内で食すための着を買い求める場面が撮影された。ドラマには八戸ニューシティホテル内「魚菜工房七重」の虎鯖棒すしも着として登場した。2月7日より青森テレビ（ATV）でも放送が始まっており、「八戸編」は3月28日放送予定。</p>
(17)	<p>八戸青年会議所 まちづくりパネルディスカッション開催</p> <p>八戸青年会議所は2月18日、八戸市内でまちづくりに関するパネルディスカッションを開催し、オンラインで配信した。神田潤一衆院議員、熊谷雄一市長、同会議所の工藤恵之助理事長の3人が、子どもの育成や近隣市町村との連携などをテーマに意見を交わし、地域が抱える課題解決の方策や地元の未来について考えた。意見交換に先立ち神田議員と熊谷市長はそれぞれ講演し、神田議員はポストコロナ時代について「地方にとっては大きなチャンスがある」と訴えた。</p>

【文化・スポーツ】

記事	概要
(18)	<p>八戸えんぶり全面中止 コロナ影響、2年連続</p> <p>八戸地方えんぶり保存振興会は2月3日、新型コロナウイルスの感染状況などを踏まえ、2月17～20日に予定していた「八戸えんぶり」の全面中止を決めた。中止は2年連続。初日に市中心街でえんぶり組が競演する一斉摺りのほか、御前えんぶり、かがり火えんぶり、史跡根城えんぶり、お庭えんぶり、一般公開も行わない。代替企画として、事前録画した摺りの様子を一斉摺りを行う予定だった2月17日からYouTubeで配信するほか、今春以降、市民らにえんぶりを披露する場を設けることを検討していく。</p>
(19)	<p>フラット八戸 初のeスポーツイベント開催</p> <p>東北最大級のeスポーツのイベント「ビヨンド・ザ・リージョン八戸ゲーミングフェスティバル2022」が2月27日、八戸市尻内町の多目的アリーナ「フラット八戸」で開催された。同市で大規模なeスポーツのイベントが開かれるのは初めて。同アリーナの映像・音響設備工事を手掛けた電音エンジニアリング（東京）が主催した。新型コロナウイルス対策を講じ、入場者も300人に制限し、対戦型の人気ゲーム「フォートナイト」をメインに各種交流試合が開催された。会場内でスケートを楽しむ人もいたほか、せんべい汁など八戸ならではのグルメや物産品も販売され、多彩な催しでにぎわった。</p>
(20)	<p>関川愛音さん（八戸市立湊中2年） スポーツクライミング 全国で活躍</p> <p>関川愛音さん（八戸市立湊中2年）は、スポーツクライミングの世代別（ユース）日本代表で、先々は世界大会での活躍が期待されている。クライミングを始めたのは小学1年で、別に熱中していたサッカーに生かせる体づくりが目的だったが、小学2年の3月に初出場した全国大会で8位に入ったのがきっかけで、クライミングにのめり込んだ。小学校高学年になると世代トップクラスに成長。昨年は、世界ユース選手権の出場権を手にしてはいたものの、新型コロナウイルスの影響で欠場を余儀なくされた。今年のユース日本選手権（3～6月）で上位に入れば、再び世界選手権の出場権を手にする。また、15歳になる今年からは、五輪代表選手選考につながる国内大会「ジャパンカップ」への参戦が可能となり、2024年のパリ五輪も視界に入っている。</p>

はちのへ

ふるさと寄附金のご案内

『ふるさと寄附金』で八戸を元気に!

八戸市では、「八戸を応援したい!」「八戸が大好き!」という方々からいただくご寄附を『ふるさと寄附金』と名付け、八戸の魅力を高めるためのさまざまな事業に活用させていただきます。ぜひ、『ふるさと寄附金』という形で八戸市を応援してください!

ふるさと寄附金の3つの魅力

① 寄附金の使い道を指定できる

震災復興、子育て支援、まちづくりなど複数の分野から、寄附金の使い道を選ぶことができます。

② 税金が控除(還付)される

控除上限額内で寄附を行うと、合計寄附額から2,000円を超える部分について、所得税の還付や住民税の控除を受けることができます。(控除上限額は収入や家族構成によって異なります。詳しくはお住まいの市区町村の個人住民税担当部署にお問い合わせください。)

③ お礼の品がもらえる

八戸市では、10,000円以上の寄附をされた八戸市外にお住まいの個人の方に、地域の名産品を「お礼の品」としてお届けしています。

八戸市東京事務所

〒102-0093 東京都千代田区平河町2-4-2 全国都市会館5階

TEL:03-3261-8973 FAX:03-3239-6723

Email:tokyo@city.hachinohe.aomori.jp

[所長] 松橋 大輔 [主幹] 川村 幸男 [事務員] 浜井 章代

申込み方法

郵送・FAX・メール

- 「ふるさと寄附金申込書」に必要事項をご記入の上、ご提出ください。
- 申込書は市ホームページからもダウンロードできます。
- 申込書の郵送をご希望の方はご連絡ください。

市ホームページ



インターネット

- 下記2つのふるさと納税ポータルサイトから商品をお選びいただけます。
- 各ポータルサイトの決済方法に従って、寄附金のお支払いをお願いします。
- クレジットカード決済をご希望の場合はこちらからお申込みください。

ふるさとチョイス



楽天ふるさと納税



送付先

八戸市 広報統計課 ふるさと寄附金担当

〒031-8686

青森県八戸市内丸1-1-1

TEL:0178-43-2319

FAX:0178-47-1485

Email:furusatotax

@city.hachinohe.aomori.jp

※担当部署が住民税課から広報統計課に変わりました。

八戸市東京事務所では、企業誘致や八戸市関連情報の発信等を行っております。関連情報がございましたら、ご提供くださるようお願いいたします。また、事務所の近くにお越しの際は、どうぞお気軽にお立ち寄りください。